

外 科 学

1 担当教員名

【研究指導教授】 教授 中野正吾
【科目担当者】

2 教育目標

(1) ねらい

多様な生物学的特性を有する乳癌，甲状腺癌領域の診断・治療法(画像診断，外科治療，薬物療法，放射線療法，病理学診断)を総合的に理解することにより，新たな診断，治療，予防法の開発に取り組み，各自がオリジナルな業績を上げることを目的とする。学生は，単に外科学の知識のみならず，基礎医学的研究手法を熟知し，リサーチマインドを身につけるとともに，豊かな人間性に基づく研究姿勢を確立する。独創的な研究を遂行し，研究成果を世界に発信することで，乳腺・内分泌外科学の進歩に貢献する。

(2) 学修の到達目標

- ① 学生は乳腺・内分泌外科の疾患について幅広い知識を習得し，手術手技を実施できる。
- ② 学生は外来・病棟にて必要な問診を行い，検査法の選択，実施，検査結果の解釈ができる。
- ③ 学生は乳癌，甲状腺癌における薬物・放射線療法の目的，意義を理解し，実践することができる。
- ④ 学生は超音波 fusion 技術を乳腺・甲状腺画像診断に応用できる。
- ⑤ 学生は乳癌・甲状腺癌における細胞外マトリックに関するタンパクおよび遺伝子解析における基礎研究手法を習得できる。

3 授業内容

【講義】	乳癌・甲状腺癌における診断・治療の最近の進歩と展望について講義を行う。
【演習】	乳腺・内分泌外科領域における診断と治療法について演習し，かつ内外の関連論文を抄読することにより討論を行う。超音波 fusion 技術の臨床応用を行う。
【実験研究】	乳癌のホルモン依存性および遺伝性／家族性乳癌における薬剤耐性機構の研究 乳癌・甲状腺癌の生物学的悪性度，転移浸潤機構についての研究

4 成績評価の方法・基準

手術手技，適切な薬物療法の選択，病理診断，超音波 fusion 技術，細胞外マトリックスに関し，専門的水準に達しているかどうか，小テスト，口頭試問および英文誌に投稿された論文および学位論文を総合的に評価する。

5 教科書・参考図書

Diseases of the Breast (5th edition), Jay R. Harris. Lippincott Williams & Wilkins, 2013
Management of Differentiated Thyroid cancer, Anne T. Mancino, Springer, 2017
Surgery of the Thyroid and Parathyroid gland 2nd edition, Gregory W. Randolph, Saunders, 2003
乳腺腫瘍学 第3版, 日本乳癌学会編, 金原出版, 2020

6 準備学習(予習, 復習等)及び必要な時間

事前にテキストの事例などに目を通しておく。1週間に7時間程度の予習・復習が望ましい。

7 課程修了・学位授与方針と当該授業科目の関連

研究発表活動を通じて、専門的職業人に必要とされるコミュニケーション能力とプレゼンテーション能力を修得し、研究における指導的役割を担うことができるようになることを目指す。また高い業績を残し、専門分野において国際的視野に立った研究を遂行できると判断した場合、学位を授与する方針とする。

8 課題(試験・レポート等)に対するフィードバック方法

レポートは、評価後返却されるが、内容に不足・誤りがある場合は再提出を求めることがある。講義、実習中に疑問点の解説、レポート内容の評価等フィードバックを行う。なおレポートの内容について、個別に指導する。

9 履修上の留意点

特になし

10 オフィスアワー

職名	氏名	曜日	時間帯	場所	連絡先
教授	中野正吾	木	12:00~12:30	C棟8階教授室	PHS 87190